

NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No.55

2019 NEW YEAR

目 次

- ◆名手訪問／対談 高階 秀爾氏
(公益財団法人 西洋美術振興財団理事長)
- ◆日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る⑧
東京大学文学部 教授 古井戸 秀夫

- ◆日本舞踊レクチャーデモンストレーション
韓国公演
- ◆特別会員ご芳名
- ◆NBF活動報告・行事予定・編集後記

名手訪問

《対談》

●高階 秀爾（公益財団法人 西洋美術振興財団理事長）

●西川 扇藏（公益財団法人 日本舞踊振興財団理事長）

[敬称略]



(於：国立西洋美術館内 西洋美術振興財団理事長室)

西川 本日はよろしくお願ひ致します。まずお尋ねしたいのですが、先生は子供のころから美術に興味をお持ちだったのですか？

高階 私の父は秋田から東京に出てきて高等師範学校で哲学の教師をしていました。ですから家に哲学関係の本は沢山あったのですが、美術に関しては、イギリスの古い翻訳本が2～3冊あつただけでした。父に連れられてイタリアの天才、レオナルド・ダ・ヴィンチの展覧会に行ったこともありましたが、小学生の頃でしたのでよくわからないで見ていました。戦後になってからは世界美術全集という平凡社で出版された本をずっと眺めていました。フランスに留学する前に美術に接した機会はそれくらいでほとんどなかったんです。

私が通っていたのは高等師範付属学校でしたが、高等師範で6年生は奈良京都をまわる修学旅行がありました。姉が同じ学校で修学旅行は大変面白かったと聞いていたので、私は修学旅行をすごく楽しみにしていたのですが、ちょうど戦争で私の

年だけ無くなってしまいました。残念に思っていたら夏休みに一人で行く機会ができ、奈良京都に行きました。そのときお寺でたくさんのお仏像を観ることができ、これは非常に大きな経験でした。今と違って観光客は全くなく、お寺にいきなり飛び込んで「学生ですか？どうぞ」って拝観料もとらないで見せてくれるんです。法華寺の十一面觀音は大変立派な仏像で、今は時間制限を設けていたりと、入るのがすごく大変なようですが、私のときは観光客もなく、「どうぞごゆっくり」と戸を開けてくれ、十一面觀音やそれ以外の仏像も一人で見て歩きました。そういう時代です。法隆寺も解体修理をしていましたが、五重塔を直していくところまで見せてくれました。その時の経験は実物を見た美術の体験として、とても大きかったと思います。ですがだから勉強しようとか、美術を専門にしようとかいう気持ちは当時はありませんでした。

自分の仕事として美術史をやろうと思ったのは、フランスに留学してからです。当時はフランスに行くというのは、戦争が終

わったばかりで大変なことだったのですが、留学生ということであれば、試験を受けて通ればフランス政府が呼んでくれるというので、留学生試験を仲間と何人かで受けました。受けたのはもちろん、フランスの学生になれるわけです。それで大学院に入った年に試験を受けて、フランスに行くことになりました。フランスに行くときは、勉強の目的を伝えなくてはならず、友達の中にはフランス文学をやる人もいたのですが、私は美術全集などを見ていたし、とにかくフランスに行きたかったので、美術をやろうと思い、一応形は美術史ということでフランスに行きました。船でフランスに向かいましたが、面白いのはフランス政府は向こうに行けば留学生ですから給費をくれます。学生生活が出来るくらいのお金は保証してくれる。給費年限が終わっても帰りの船賃は出してくれるのですが、行きの船賃は出してくれないんです。とにかく無理してでも何とか船に乗りました。後で考えると船でフランスへ行ったのは大変良かったと思います。というのは船ですと、あちこち寄るわけです。ひと月以上かかるのですが、途中香港に寄り、マニラ、コロンボに寄ってという形で東洋の国々を眺めることが出来ました。それは今までにない貴重な経験でした。船旅の良いところは船賃で食事は出るので、お金がなくとも見物をして歩くことはできるのです。それで東洋にはいろいろな国があるということが身に染みてわかりました。フランスに着いて学校に入り、そこから美術史の勉強が始まったといって良いと思います。

西川 では先生が西洋美術をはじめられたきっかけを教えてください。

高階 フランスでは大学生ですから最初はいろいろ授業を受けました。そのときに私が特に興味を持って授業を受けていたのが、シャステル先生というイタリア美術の専門家の先生でした。もちろん、西洋美術の歴史は勉強するのですが、シャステル先生とは実際にフィレンツェに行き、先輩と一緒に先生に連れられていろいろな所を見て回りました。

ました。その体験は非常に大きかったです。イタリア美術というのは、もちろんフランスもそうですが奥が深い。形とか色とか非常に見事な造形的な美しさがある、けれども同時に人々の考え方とか思想とか、精神的なものがそこに反映されている。これも先生から教えられたのですが、絵を見るのと同時に当時の思想史だとか、ギリシャ以来の哲学の流れなども勉強しなさいと言われました。その時、美術に対する見方が単に綺麗だなとか美しいなというだけではなく、もっと精神的な価値もあるし、いろいろな意味もあるのだと教わりました。それが最初のイタリア美術の取扱いのことと、帰ってきてからフィレンツェについての本を書いたりしました。

フランスには学生時代に5年いましたが、イタリア、フランス、それから中世の教会巡りもしました。美術の場合は実際作品を見ないと勉強になりません。美術全集で見た、それも知識としては大事だと思うのですが、実際に作品を観るとまるで違う。これはほかの芸術もそうだと思います。舞踊にしても、映画やテレビにしても画面だけでも伝わるでしょうけど、実際観るのとは違うと思います。図版では有名な作品をしおり見てますが、しかし実物を観ると違うんです。フィレンツェに旅行して実物を観る、フランスだと美術館でも実物を観ることができます。ただ美術館に作品は並んでいますが、古い教会の絵画などは実際行かないで観れません。ですので旅をして回ってたくさんの作品に接することが出来たことは、やはり大きな経験だったと思います。本当に美術史をやることの意味がフランスにいた5年間でわかったと思います。

西川 そうですね。今は劇場へ足を運ばなくとも、手軽にインターネットなどで映像を見る事ができますが、実際に生で舞台を観て感じるということとは全く異なりますね。

先生は日本美術にも造詣が深いと思われますが、日本美術と西洋美術の違いはどこにありますか？

高階 共通するところもあるけれども、違いも

あります。古いものと新しいもの、伝統と現代のもの。日本美術に関しては、高校、大学の始めの頃に、奈良京都を旅行した程度しか知らないんです。そこで観たのは仏様で、絵はほとんど観ていません。日本の美術を仏像関係以外で知ったのはフランスに居たときです。フランスに居た5年間の最後の年に、日本古美術展がフランスのパリにやってきました。そのときに日本の美術史の先生も大勢こられて、雪舟の「秋冬山水図」や「天橋立図」、長谷川等伯の「松林図屏風」、尾形光琳の「風神雷神図屏風」など今では滅多に外国にはださない作品が沢山来ました。それからもちろん彫刻も「埴輪」からはじまって法隆寺の「夢違観音像」などが来ました。つまり日本の優れたものに私はパリで初めて触れたのです。その時私は、日本の美術の先生方の通訳として雇われましたので、作品を非常にゆっくり観ることができ、そこで日本美術に対する興味が湧きました。実際の作品を見て、すごいということが初めて解ったのです。光琳の「風神雷神図屏風」の裏に光琳の絵に惹かれて絵師となった酒井抱一の「夏秋草図」が描かれていた。今は別々の屏風になりましたけれど、当時は「風神雷神図屏風」の裏に「夏秋草図」がそのまま書いてあつたんです。フランスの人は表の光琳の「風神雷神」より、屏風の裏に描かれている抱一の「夏秋草」の風景の表現が面白く、デザインも非常に見事であると言っていました。日本美術は以前から歌麿や北斎などの浮世絵が非常に喜ばれていましたが、その時古美術展に来られた先生方は、日本美術は浮世絵だけじゃない、雪舟もあるし古い大和絵もある、ということを外国に知らせたかったようです。なのでその古美術展では浮世絵のものはあまり無かったです。それがフランスの人にとっては、新しかったのだと思います。

日本の先生の中には浮世絵はいわゆる大衆芸術だという人もいます。ところがヨーロッパでは高く評価される。そんな意味でもそれぞれの文化を調べると、ヨーロッパと日本、ヨーロッパでも中世と近世ももちろん違います。文化に触れることで、精神世

界も含めた美の世界は非常に広く多様なものだと解ってきます。今の新しい芸術家の方は、いろいろなことやっていて、それも一つの方向であり、その中にも古い伝統的な感性というものは生きているのだと思います。

美術の研究をしていると、古いことがわかると同時に、新しい見方もでてきて、それは研究というより、美術という世界の優れたところ、面白いところだと思っています。

西川
高階

一般の方たちがより楽しみながら美術館を巡る方法というのはありますでしょうか。

自分の経験から照らして、物に問い合わせていろいろなことを知ると、それは一層面白いし経験が豊かになる。今回のルーベンスの展覧会にも大勢の方が来てくださいました。それを見て、絵の上手い下手はすぐわかると思います。しかし、十字架にかけられた傷ついた身体を描いている理由は、背景を知らないと理解できないでしょう。例えばキリスト教というのはどういうものであるのかなどです。基本的にはキリスト教の考えというのは、人間の地上の世界は神の世界に行くためのものだ、そのためには聖書があるとか、聖人の物語があり、それが絵になっている。聖書を読んでみると、とくに聖者の物語、この展覧会にも来ていましたけれど人間と神様の間にいるような人で、この聖人がずいぶん苦労をし、殺されたりした人も沢山いたわけです。なぜそうなったんだろう、殺されたけれど逆に崇められた、というようなことを調べると「ああ、そうか」と解ってくるわけですね。それは美術を見る非常に大きな要素だと思います。

一般の方は絵の上手い下手だけではなく、絵を理解しようとすると良いと思います。そうするとぐっと面白さが増して関心が強まると思うので、そのためには背景を教える本や、歴史に対して興味を持つというのはどうしても必要だろうと思います。西洋なら西洋、日本なら日本の文化というものに接することは非常に大事だと思います。ですから美術が好きな方、そういう方は是非そうやって観ていただきたいです。同時にその背景になったもの、日本の美術が好きだ

というなら源氏物語でも、浮世草子でもいいし、浦島物語もいいです。そういうも



のを広く知ることによって、見る楽しみが増えるということが、強くあると思います。もちろん専門の方には及ばないけれども、しかし知ることは必要だと思います。カタログを見てもいいし、いろんな方法があると思います。見ると同時に知るということは、知識が増えるだけではなくて、知識の楽し

みと見る楽しみが出てくると思います。

西川 今後の美術の世界に先生が望まれていることは何でしょうか。

高階 美術の世界では新しい人が次々と出てきています。我々が思いもよらない、とんでもないものを出して欲しい。新しい美術は新鮮な驚きみたいなものです。中には我々が見たってどうしようもないもの、人に迷惑をかけたりするようなものもあるのですが、それでもかまわないんです。ただその中にきっと光るものがあることがある。やられる方は思い切っていろんなことをやっていただきたいと思います。

西川 本当ですね。日本舞踊の世界でも同じです。本日はお忙しい中、興味深いお話をありがとうございました。

高階 秀爾氏 プロフィール



公益財団法人西洋美術振興財団理事長
東京大学文学部名誉教授
大原美術館館長
文化勲章受章者
日本藝術院会員

- 1932年2月5日 生まれ
- 1953年 東京大学教養学部教養学科卒業
- 1954-1959年にフランス政府招聘留学生として渡仏、
パリ大学付属美術研究所および
ルーブル学院で西洋近代美術史を専攻
- 帰国後、国立西洋美術館主任研究官
- 1979年 東京大学文学部美術史科教授
- 1981年 フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章
- 1989年 フランス芸術文化勲章オフィシェ章
- 1997年 パリ第一大学名誉教授
- 2000年 紫綬褒章
- 2001年 レジオンドヌール勲章シュバリエ章
- 2002年 大原美術館館長
- 2004年 京都造形芸術大学大学院長、
同比較藝術学研究センター所長
- 2005年 文化功労者
- 2012年 文化勲章受章
- 2015年 日本藝術院会員

山姥物の系譜①

「山姥物」の源流は能の『山姥』でした。禅宗の影響が強く、「煩惱はすなわち菩提」とか「生死はすなわち涅槃」という禅語がちりばめられていますので、昔から一休禅師が書いて、その友達の金春禪竹が節を付けたという俗説もありましたが、現在では世阿弥の作で通っています。山姥は山に棲む女性。里の人々には鬼女だと怖れられる一方で、人なつこい一面も持っていました。その事例は、柳田国男の『山の人生』に報告されています。能ではそれを「善悪不二」という禅語で表わしました。善と悪とは別々に見えて別々ではない、ひとつ。世阿弥は山姥の悪を『伊勢物語』の「鬼ひと口」に譬えました。業平が女御を背負って芥川を渡った、有名な話でした。雷が鳴り、雨が激しく降る。女御をあばら屋のかくまつところ、「あなや」と悲鳴を遺して消えてしまいました。そのとき鬼がひと口に喰ったのであろう、というのが「鬼ひと口」。禅語だけではなく、歌物語を重ねたところに世阿弥の狙いはあったのでしょうか。「善」のエピソードは二つ。男の話と女の話、どちらも「人を助くる業」でした。男はきこり。薪の重たさに花の木陰で休んでいるのを見て、肩を貸して里まで送ってあげました。女は織女。糸を繰るのを助けてあげました。人間の目には見えないけれども、どちらも山姥が密かに人を助けていたのでした。二つのエピソードは、和歌の徳は鬼の心をも動かすとされた『古今集』の仮名序にある譬如でした。

能にはこの曲にだけに使われる「山姥」の面があります。「大山姥」と呼ばれる梅若六郎家に伝わる赤鶴の面は、金色の眼に赤い歯茎、お歯黒の歯、泣いているようで笑っているように見えます。赤鶴は世阿弥が鬼の面の上手と誉めた名工でした。

能の『山姥』には、ほんものの山姥と、「山

東京大学名誉教授

古井戸 秀夫

姥の曲舞」を得意とする遊女の「百万山姥」と、二人の山姥が登場します。前半の主人公は里の女、実は山姥でした。里の女は遊女に山姥の歌を所望、夜になればまことの姿を現して一緒に舞いましょう、と約束をして消え去るのでした。遊女の曲舞に歌われた山姥は、生まれたところも知れず、家もない、雲や水とひとつになって、どんな山の奥でも行けないところはない、という女性でした。春は花を訪ねて山廻り、秋は月見の山廻り、冬は雪に誘われて山廻り、楽しそうに山から山へと山廻りをしても、実は苦しい。心の迷い、それを「塵」に譬え、その塵が積もって山姥になった、というのでした。「よし足引きの山姥が、山廻りするぞ、苦しき」というフレーズは、よく知られたものだったのでしょう。

遊女の渾名「百万」は奈良の曲舞の名手でした。その流れを汲む加賀の乙鶴から觀阿弥は曲舞を習った、と伝えられています。それまでの小歌はメロディ中心の叙情歌でした。曲舞ではリズムに乗って物語が語られます。ひと節、歌って立ち上がると、歌いながら舞う、その面白さを取り入れたものでした。觀阿弥は昔の百万を主人公にした「嵯峨の大念佛の女物狂」の能を作りました。現行の能『百万』はそれを世阿弥が改作したものでした。幼い我が子を浚われた母親が狂女となって春の嵯峨野をさまよい、おりから釈迦堂の大念佛で音頭を取って面白く歌い舞う、女曲舞の芸を見せる「面白づくの能」でした。

能『山姥』の遊女は山姥の曲舞を歌って「百万山姥」という異名を取り、都では隠れのない有名な遊女になりました。その遊女が信濃の善光寺に参詣する途中で山姥に呼び止められることになるのでした。金春や金剛など下掛かりの流派では善光寺参りのその理由を親の十三回忌にしています。親というの

は母親だったのでしょう、この母も女歌舞の遊女だったのでしょう。その菩提を弔うための参詣でした。ふる里の奈良ではなく信濃に向かったのは、善光寺の阿弥陀さまが女人救済の仏として知られていたからではないでしょうか。救いを求める女性たちの姿は御伽草子の『七人比丘尼』にも描かれました。信濃国の関川というところの比丘尼宿。宿を求めた尼五人、亭主の尼二人、あわせて七人の尼の語る「さんげ物語」でした。亭主の尼は古阿弥と今阿弥。六人の懺悔話を聞いた今阿弥はその懺悔は偽りの懺悔、真実の懺悔ではないといって、自分の過去を語りました。も

とは、やんごとなき姫君、稚児と駆け落ちをしたものの、姫の美しさに心を奪われた男に稚児を殺され、形見の刀で敵のその男を殺してしまいました。語る尼今阿弥は「善悪不二」「邪正一如」あるいは「煩惱即菩提」など禅語を使いました。能『山姥』の主人公と共に通するものがあったのでしょうか。

能『山姥』の話に戻ると、山姥が現れたのは越中と越後の国境の境川、山姥の里の上路山は親知らずに続く難所でした。人間には国境の難所でも山姥にはなんでもありません。山から山へと山廻りしても苦しいのは体力ではなく、心の迷いでした。



〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-3-14
ツカモト堀留ビル6階

フリーダイヤル ごふくわいづや
0120-5290-58

日本舞踊レクチャーデモンストレーション韓国公演

平成 30 年の締め括りに、(独行) 国際交流基金ソウル日本文化センター主催、(公財) 日本舞踊振興財団制作により、韓国に於いて《日本舞踊レクチャーデモンストレーション(以下レクデモ) – 舞と踊りー》を開催いたしました。

プログラムは、花柳喜衛文華氏による「水仙丹前」を衣裳付きで、西川箕乃助氏による「旅奴」、山村友五郎氏による地唄「たにし」を素踊りにてご覧頂き、解説や体験の時間を設けるというものでした。

一行は 11 月 30 日に渡韓、12 月 1 日はソウルにある韓国総合芸術学校(瑞草洞キャンパス)、2 日は釜山へ移動し国立釜山国楽院の 2ヶ所でレクデモを行いました。

2 会場とも、まずは鈴木英一氏が作成された日本舞踊についての台本に沿って、同時に通訳を入れながら西川箕乃助氏が解説をしました。また 3 演目の上演前には、各演目についての説明をし、役柄や設定などを頭に入れてからご覧いただくようにしました。また「水仙丹前」と「たにし」の間には、西川箕乃助氏による扇子や手拭いの扱い方や意味、また日本舞踊独特の動きを実演を混じえて解説を行い、途中から希望者が壇上へ上がり、実際に扇子や手拭いを手にしての体験の時間も作りました。

3 演目をご覧いただいた後、質問コーナーを設けました。「韓国でも欧米文化に押されて伝統文化は難しい状況にあるけれども現代の日本で、日本舞踊はどのように受け入れられていますか?」という質問があり、伝統芸能の置かれている厳しい現状は万国共通であり、国を挙げて何かしらの早急な問題解決への手立ての必要性を痛感しました。

ソウルの会場には総合芸術学校で舞踊を

専攻している学生さんを中心に大勢の方がお越し下さり、プサン会場では日曜日ということもあり、たくさんの家族連れのお客様がご来場下さいました。舞踊専攻の学生さん達にとって、日本舞踊の解説は、自分の専攻している舞踊との共通点や、異なる点を発見することができて勉強になったとの事。そして子供達には、やはり扇子や手拭いを使っての体験が興味深かったようで、積極的に壇上に上がり、楽しそうに様々な動きを体験していました。

初めて日本舞踊をご覧になるお客様も大勢いらっしゃいましたが、解説があることにより、すんなりと日本舞踊の世界に入り込むことが出来、理解をして頂けたように感じました。出演者を含め 5 名の他は全て韓国の現地スタッフの方々でしたが、皆さん、とても協力的だったお陰で、リハーサル、本番とスムーズに進行し、無事 2 日間のレクデモを終えることができたことに感謝しています。

3 日は韓国芸術総合学校(石貫洞キャンパス) 芸術劇場中劇場で開催された《第 21 回世界無形文化財招請シリーズ 日本舞踊 – 歌舞伎の伝統と変容 –》という公演に五耀會メンバー 3 名が合流し、五耀會の 5 名と花柳喜衛文華氏が出演いたしました。こちらは通常の公演形式で、まず花柳喜衛文華氏による「水仙丹前」、藤間蘭黄氏による「山帰り」を衣裳付にて。続いて素踊りにて、花柳寿楽氏、花柳基氏による「連獅山」、西川箕乃助氏「旅奴」、山村友五郎氏「たにし」、最後は 5 人そろっての「旅」で幕となりました。満席となった客席からは大きな拍手が湧き起こり、大変喜んで頂きました。渡韓した初日に大使公邸にお招き下さった、長嶺安政駐

大韓民国特命全権ご夫妻もご覧下さり、見応えがありとても素晴らしい公演だったとお褒めの言葉を頂戴することが出来ました。

今回の2回のレクデモ、3日の公演を通して感じたのは、やはり韓国は1番近い国だけあって、根本の部分で文化的に近いものがあるのではないかということでした。どこかに通じるものがあるからこそ、今回の短い

公演でも、韓国の旅客の方々に日本舞踊を受け入れて頂いたのではないかと思います。

2020年春には韓国にて韓国打楽器奏者とのコラボレーションを含む大規模公演を企画しています。今回の3日間の経験を踏まえ、2020年の公演を成功に導くことができるよう、更なる内容の充実を図っていきたいと思っています。



「水仙丹前」
花柳喜衛文華氏



「たにし」
山村友五郎氏



「旅奴」
西川箕乃助氏



レクチャー



長嶺大使ご夫妻を囲んで

特別会員 ご芳名

日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、下記の方々にご支援を
いただいております。是非ご参加をお願い申し上げます。

◎会費	1口 10万円(1年間)
◎特典	会報のご送付 会報・公演プログラム等にご芳名掲載 財団主催イベントにご招待

飯田君子	関根愛子
飯田信子(飯田不動産代表)	(株)瀧川峰晴堂(代表取締役瀧川明行)
飯田良枝	東京信用金庫(理事長半澤進)
ツカモト市田(株)	東信企業(株)(代表取締役神永和昭)
(有)かつら大阪屋(代表取締役長坂誠一郎)	西川井扇
金井大道具株式会社(代表取締役金井勇一郎)	(株)西菱
歌舞伎座舞台(株)	(株)ビデオフォトサイトウ(代表取締役海老原利明)
(有)ギャラリー竹柳堂(代表取締役藤澤繁)	(株)ホテルオークラ東京(代表取締役社長池田正己)
向陽ビル(株)(代表取締役鈴木甫沙子)	薮本俊一(株)古美術薮本代表取締役)
松竹衣裳(株)(代表取締役会長武中雅人)	山本化学工業(株)(代表取締役山本富造)
セガサミーホールディングス(株)(代表取締役会長里見治)	(株)吉岡(代表取締役清水喜重郎)

◆財団の趣旨をご賛同いただける方は財団事務局までご連絡ください。特別会員について
ご説明いたします。その上でご希望の方には申し込み書類をお送りさせていただきます。

財団事務局 TEL 03-3354-5496

NBF活動報告

◆新宿区「こども文化体験プログラム」－日本舞踊－

日 時：平成 30 年 8 月 1 日(水)～3 日(金)
 会 場：新宿四谷地域センター多目的ホール
 内 容：新宿区主催のこども達の体験教室。
 主 催：新宿区

◆新宿区小学校鑑賞教室

日 時：平成 30 年 10 月 4 日(木)
 会 場：富久小学校
 内 容：小学 6 年生を対象に日本舞踊について簡単なレクチャーを行い全員によるワークショップ。その後日本舞踊の一部を上演した。

◆文化庁伝統文化親子教室－新宿区日本舞踊こども教室－

日 時：平成 29 年 10 月 4 日(日)～
 平成 30 年 1 月 21 日(日)
 会 場：新宿区四谷地域センター
 内 容：文化体験プログラムをさらに発展させ、日本舞踊の基本に曲をあわせて踊る。未就学児より小学校高学年まで参加。最終会には発表会を行う。

◆新宿区小学校鑑賞教室

日 時：平成 30 年 11 月 6 日(火)
 会 場：余丁町小学校
 内 容：小学 4 年生以上を対象に日本舞踊について簡単なレクチャーを行い全員によるワークショップ。その後日本舞踊の一部を上演した。

◆日本舞踊レクチャーデモンストレーション

日 時：平成 30 年 11 月 30 日(金)～12 月 4 日(火)
 会 場：大韓民国 … ソウル市、釜山市
 内 容：ソウル市及び釜山市において「舞と舞踊」のコンセプトに基づき衣裳付きと素踊りを実演し、簡単な体験及び質疑応答を行った。また、3 日目には世界舞踊祭にも出演した。
 主 催：独立行政法人国際交流基金ソウル日本文化センター

公益財団法人日本舞踊振興財団 「NBF」 No.55

発 行 公益財団法人日本舞踊振興財団
 〒162-0065 東京都新宿区住吉町
 10-8 片桐ビル 301
 印 刷 株式会社デイエムピー
 発行日 平成 30 年 12 月

NBF行事予定

◆第 53 回講演会

日 時：平成 31 年 1 月 28 日(月)
 会 場：東京信用金庫本店 8 F ホール
 演 題：日本舞踊の小道具について
 講 師：松竹衣裳(株) 小川洋輔氏

◆東洋英和幼稚園幼稚園鑑賞会

日 時：平成 31 年 2 月 20 日(水)
 会 場：東洋英和幼稚園

◆仕舞・狂言教室発表会

日 時：平成 31 年 3 月 14 日(木)
 会 場：杉並能楽堂



編集後記

あけましておめでとうございます。いよいよ今年新たな年号にかわり、新しい時代になろうとしています。

当財団は新しい時代になつても、古き良き物を残しながら、時代にあった新たな物を試みていこうと思っております。

本年も後援宜しくお願い申し上げます。



公益財団法人 日本舞踊振興財団

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 10-8 片桐ビル 301

TEL・FAX: 03-3354-5496
<http://www.nihonbuyo.or.jp>
E-mail: office@nihonbuyo.or.jp